

2009 **4**

6号

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization



Matsumoto Medical Center

理念

いのちの尊さを重んじ、質の高いやさしい医療を提供します

まつもと医療センター

- ◆まつもと医療センター「発足2年目を迎えて」～大原副院長……………2
- ◆中信松本病院 ～まつもと医療センター小児科この1年とこれから…3
- ◆松本病院 ～消化器外科紹介……………4
- ◆マルチモタリナイ時代における運動脈疾患の診断 ～最近の診療ドッキング…6
- ◆新任医師紹介……………8
- ◆くさま内科クリニック紹介……………9
- ◆春のコンサート……………10

Matsumoto Medical Center

まつもと医療センター 発足2年目を迎えて



副院長
おおはら しんじ
大原 慎司

あれからはや一年…

まつもと医療センターは今年4月で2年目を迎えました。昨年来の未曾有（みぞう）というわれる経済危機が全世界を覆い、アメリカでは政権が交代して初の黒人大統領の誕生で幕を開けました。日本の経済状況も深刻で、医療や国民の健康に与える悪影響が危惧されています。まだ視界不良の状態は続きそうですが、そのような時期であるからこそ、新年度を迎えて当センターの着実な前進を願わずにはいられません。

まつもと医療センターとしての1年間を振り返ってみますと、2病院の統合により、消化器疾患の診療が松本病院に、小児疾患の診療が中信松本病院にまとまって、それぞれに県内屈指の陣容となりました。病院間にはシャトル便がほぼ1時間おきに、職員や紹介の患者さん、資料をのせて忙しく行き

来しています。昨年10月には、「見よう、触れよう、感じよう、あなたに身近なまつもと医療センター」のテーマのもとに、初めての病院祭が行われました。秋晴れの土曜日に、300人を越える地域の方々が来られて、職員と楽しく交流を深めることができました。今年は第2回のセンター病院祭が中信松本病院で開かれる予定ですので、どうぞご期待ください。今回の病院統合で診療機能の充実が図られましたが、その内容についての地域での認知には、まだいま一つの感があります。それは今後の課題と 생각합니다。

長寿医療センターの大島総長は、先の総合医学会での「超高齢化社会と医療の動向」と題した講演のなかで、高齢者医療の特徴として、個別性と多様性をあげて、従来の臓器対象型、病院完結型ではなく、診療所医師と病院勤務医、さらに介護と福祉が連携して地域全体でカバーする医療が、これからの医療の姿であろうと述べています。「連携」と「機能分担」がキーワードです。今年から、まつもと医療センターの登録医制度が始まりました。3月末の時点で、既に200名を超える診

療所の先生方に、まつもと医療センターの登録医となって頂くことが出来ました。病院での共同診療や機器の共同利用などで、これまで以上に相互の診療連携が進み、患者さんの利益になることが期待されます。

院内に設置されたご意見箱には、患者さんやご家族から連日多くのご意見があり、日々の病院の運営改善に役立たせて頂いています。まさに「患者さんのご意見は病院の宝物」です。なかには思わず襟を正したくなるような厳しい指摘もあり、ときには元気づけられるような感謝や励ましのことも頂いています。

私たちの仕事は、さまざまマニュアルに従ってキチンとおこなうことが肝心ですが、手順に慣れてくると、患者さんやご家族の気持ちに鈍感になりがちです。そうならないために、病院のなかに、市民の視線、空気、価値観を持ちこめるようなしくみが、もっと必要かと思っています。

4月は新たな職員を迎えての出会いの季節でもあります。地域の方々から信頼される病院をめざして、みなで気持ちを新たにして進みたいと思います。

こどもたちの笑顔のために

まつもと医療センター小児科 この1年とこれから



小児科部長
いわさき やすし
岩崎 康
(中信松本病院)

小児科は昨年の組織統合により8人の小児科医での体制となりました。外来では3診体制で行なうことにより、じっくり診療することができるようになりました。入院診療では、これまで行ってまいりました慢性疾患医療と重症心身障害児・者医療を継続しながら、多くの急性疾患のお子さんの診療を行い、月に90-100人の入院患者さまにご利用いただきました。小児科では医師看護師のみではなく、療育指導室の児童指導員や保育士、臨床心理士の活躍もあり、発達障害のお子さんや心身症のお子さんの診療が充実しております。また、「医教連携」として寿台養護学校にご支援を頂き、入院しながら通学されるお子さんの医療を続けることができました。

急性期医療につきましては、松本広域二次輪番救急体制の半数以上を担当しておりますので、入院患者さんはより広域化し、安曇野市や筑北方面からの入院患者さんも増えてきています。残念ながら365日体制にはできておりませんので、今後も近隣の医療機関や松本市の夜間急病センターと連携をとることで、救急医療が必要なお子さんが入院できないことのないようにし

てまいります。当院の小児科医も引き続き急病センターへの出務も行なうなど、地域全体の小児医療体制についてさらに充実した体制をめざしてまいります。診療所の先生から様々な疾患の患者さんをご紹介いただきました。消化器外科が松本病院に集約されたことで小児の腹部外科疾患に対する対応が遅れることが心配されましたが、外科医と小児科医が迅速に連携をとることでスムーズに転院することができました。また、新生児の疾患につきましても黄疸や先天異常に対し十分な医療ができたと考えております。冬季になりましたが、院内他病棟の協力により定床以上の入院対応ができました。それでも一部当院でお受けできない事例があり、診療所の先生にご迷惑をおかけいたしましたことをこの場をおかりしてお詫び申し上げます。

信州大学やこども病院との協力も十分でき、より高度な医療が必要な患者さんを遅滞なく受け入れていただいております。これら高次医療機関との連携で、研修医の教育やこども病院の在宅医療の推進にも協力してまいりました。

小児科の勤務医不足が深刻化する中、これだけの体制を維持できましたのも、地域の患者さまご家族や医師会の先生方はじめ皆様に育てていただいたおかげと深謝申し上げます。今後も地域のこども達のためにご指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。

外科紹介

まつもと医療センターの外科は、松本病院で主に消化器外科、乳腺内分泌外科、血管外科、中信松本病院で主に呼吸器外科の診療をおこなっています。今回は松本病院消化器外科についてご紹介致します。

松本病院の消化器、一般外科は平成20年4月の中信松本病院との機能統合により診療が松本病院に一本化されました。現在外科医常勤5人、非常勤4人の体制で診療させていただいています。診療にあたっては主治医を決めることにより責任の所在をはっきりし、患者さんならびに紹介医の先生との意思疎通を遺漏なく行うようにしていますが、治療においてはスタッフ全員がすべての患者さんの治療方針の決定、実施にあたり協力しあい独善的な治療を排する努力をしております。診療実績は以下のごとく地域の中核病院として十分機能していると考えております。しかし建造物の老朽化等で患者さんやスタッフが満足感を得られないことも多々あると認識しております。

最近の外科治療の特徴のひとつは高齢で手術を受けられる方が多くなってきたことです。理由は合併症を治療する技術の進歩と、年齢に関係なく体力、気力が維持されている方が多いことなどがあげられます。しかし手術という一生に一回うけるかどうかの治療法に関しては患者さん本人の意思を十分尊重する必要があるのでしよう。納得した上で受ける治療と周りの勧めでうける治療ではその結果にも差が生じるように思えます。

もう一つの特徴は、癌の治療において近年の手術技術の進歩とともに抗癌剤治療の進歩も目覚ましく、両者が接近してくることで手術と抗癌剤を組み合わせた治療が効果を上げ始めていることです。癌は早期発見、早期治療で治る病気ですが、再発

しても粘り強く治療することにより病気と付き合っていくことができるようになりつつあります。さらに抗癌剤以外に、内科的治療放射線治療、麻酔科的治療等を加えた総合的治療(集学的治療とも言います。一例として肝がんの統計を示します。)にも力を入れているのが当院の特徴とされます。

最後に、これは当センターのみならず社会的な問題ですが、外科医師も高齢化していることが挙げられます。現在はベテランの外科医が多く、安定した治療成績が得られています。技術を受け継ぐべき若い外科医が圧倒的に減少しています。必ず良い対策が講じられると信じつつ、外科医一人を育てるための大変な労力を考えると、遅きに失してしまわないことを願うばかりです。

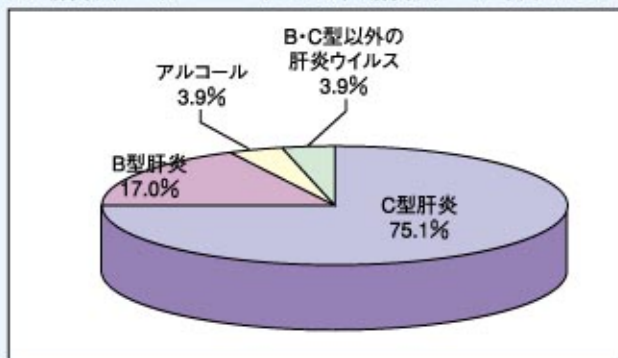
消化器

肝がん

肝臓にできるがんには、原発性のがんと転移性のがんがあります。
当院で平成8年9月～平成19年9月までの11年間で
治療を行った原発性がん229例の治療実績を示します。
年齢は30歳～89歳、平均年齢は67.7歳でした。

☆ 肝がんの原因 ☆

肝臓にできるがんの多くはC型肝炎ウイルスが原因です。
そのほか、B型肝炎ウイルス、アルコール、B・C以外の肝炎ウイルスが原因となっています。



☆ 治療件数と治療法 ☆

治療法	症例数
肝切除	103
局所療法*	44
肝動脈塞栓術 (TAE)	82
合計	229

*ラジオ波焼灼術 (RFA)・エタノール注入療法 (PEIT)

外科医長

北村

宏



松本病院
2008年の手術件数 (486件)

消化器外科……………410件
 乳腺内分泌外科……………50件
 血管外科……………21件
 胸部外科……………5件

最近の診療トピックス(14)

リレー形式

マルチモダリティ時代に
おける冠動脈疾患の評価

21世紀における国家戦略として糖尿病と慢性腎臓病（CKD）の克服があげられています。糖尿病では無症候性に冠動脈病変の進行することが多く、外来レベルでの確なスクリーニングが求められます。さらに糖尿病の腎障害などもそうですが、CKDに対して造影剤を使用しない腎臓にやさしい検査も求められています。近年、心臓病に対する画像診断は心エコーのみならず、外来レベルで冠動脈CT、心筋シンチグラフィ、心臓MRIが導入されてきていますが、当センターではすべての検査が可能です。このマルチモダリティ時代における冠動脈疾患の評価については、その利点と欠点を十分理解したうえで患者さんに適した検査を選択することが必要です。

1、冠動脈CT

冠動脈の狭窄そのものを評価します。3D表示のvolume rendering画像、Curved

MPR画像、plaque viewなどが評価可能です。造影剤を使用するため、造影剤アレルギーや腎機能障害のある方は心筋シンチグラフィを行います。また、心房細動などの不整脈のある方や、冠動脈に石灰化のある高齢者や透析患者ではきれいな画像が撮れない場合があります。当センターでは腎機能障害のない比較若い方に冠動脈疾患のスクリーニングに用いています。

2、心筋シンチグラフィ

冠動脈の狭窄により生じる心臓の血流異常（心筋虚血）を評価します。心臓のサーモグラフィのようなものです。全く副作用がないため、腎機能障害の方にも安全に検査が行えます。通常は自転車（エルゴメーター）をこいでいただき検査を行います。整形外科疾患や脳卒中後遺症などで運動のできない高齢者でもアデノシンという薬剤を用いて、運動したのと似た状態を作り出して心臓の血のめぐりが評価できます。心電図を同期させることにより心機能も評価可能です。当センターでは9月にガンマカメラが更新され、診断精度の向上が期待されます。

(症例)

狭心症のスクリーニングとして冠動脈CTを施行(図1)。右冠動脈と左回旋枝に高度狭窄がうたがわれた(矢印)。運動負荷心筋シンチグラフィ(図2)では後側壁に心筋虚血を認める(矢印)。冠動脈造影(図3)では右冠動脈と左回旋枝は慢性完全閉塞していた(矢印)。

*当センターでは月曜日(9:00~10:30)、水曜日(9:00~10:30)に冠動脈スクリーニング外来を開設しています。糖尿病やCKD患者様で冠動脈疾患のスクリーニングを行いたい場合はお気軽にご紹介ください。

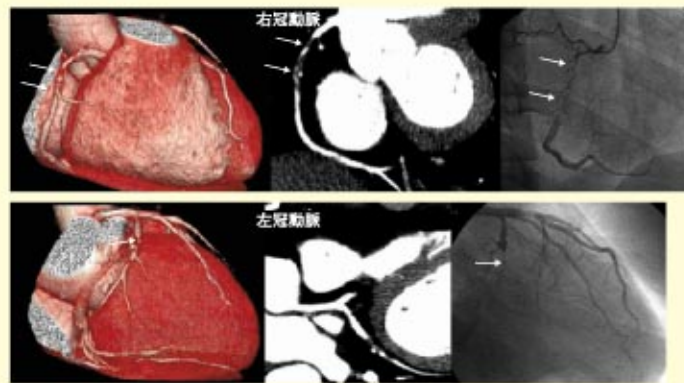


図1. 冠動脈CT

図3. 冠動脈造影

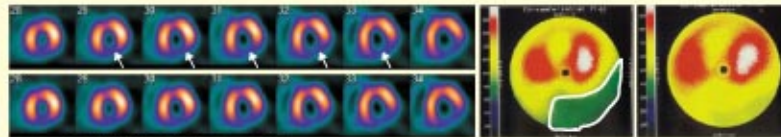


図2. 運動負荷心筋シンチグラフィ

循環器科医長
矢崎 善一
やまざき ぜんいち

新任医師紹介

レジデント



こまつはんや
小松 範也

平成7年卒

患者様の身になり、地域に貢献出来るよう頑張りたいと思います。よろしくお祈りします。

研修医

まつむらひでやす
松村 任泰

一年間という短い間ですが、よろしくお祈りします。



こいけちひろ
小池 千尋

頑張りますので、よろしくお祈りします。



中信松本病院



ながはるさちこ
永春 幸子

小児科医師
平成17年卒
専門：小児神経

日本小児科学会、日本小児神経学会

4月1日に赴任しました。小児神経疾患を中心に診療を行います。どうぞよろしくお祈りします。



よろしく
お祈りします

松本病院



せきとしまさ
関 年雅

循環器科医師
平成14年卒

専門：心臓病一般
(虚血性心疾患、
心不全、不整脈)

日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心血管インターベンション学会、日本心血管カテーテル治療学会 ほか
認定内科医

胸痛、呼吸困難など心疾患が疑われる患者様がいましたら御紹介いただければ幸いです。

よこいけんた
横井 謙太

外科医師
平成15年卒
専門：消化器外科、
外科一般



日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本臨床外科学会

日本外科学会専門医

消化器疾患、手術に関してお困りのことがあればいつでもご相談下さい。



あらくらふゆこ
新倉 冬子

皮膚科医長
平成7年卒
専門：皮膚科一般

日本皮膚科学会、日本アレルギー学会、日本免疫学会

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、信州大学院医学系研究科移植免疫感染症学講座非常勤講師

4月から松本病院で働けることを大変嬉しく思っております。スキンケアから専門的治療まで、皮膚科診療を通じて地域の皆様のお役に立てるよう努めたいと思います。患者様のご紹介を宜しくお祈り申し上げます。

くさま内科クリニック紹介



くさま やすまさ
草間 靖方 先生



〒399-0026 長野県松本市寿中1-5-35
TEL (0263) 87-0111 FAX (0263) 85-0300

診療時間

時間/曜日	月	火	水	木	金	土	日	祝
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	—	—
午後 3:00~6:00	○	○	○	○	○	—	—	—

まつもと医療センターの諸先生をはじめ、医療連携室、並びにスタッフの皆様には、平素より大変お世話になり、ありがとうございます。

当クリニックは、平成19年10月、寿中1丁目に開設しました。私は、昭和61年に信州大学を卒業し、そのまま母校の第一内科に入局、大学および県内の関連病院で、主として循環器疾患および一般内科の診療に従事してきました。開業前は、鹿教湯三才山リハビリテーションセンター三才山病院に勤務し、専門外ながら脳卒中を中心としたリハビリテーションにも関わってきましたが、他院から転院して来る患者さんの多くが重度の後遺症をもち、専門スタッフの懸命の努力にもかかわらず、必ずしもご本人やご家族の期待されるような成果が得られない状況をしばしば経験しました。これほどの病状になる以前になんとか手立てはないものかと、改めて予防医学の重要性を認識するようになりました。

当クリニックにおける診療は、

患者さんの病状に合わせた薬物治療が中心とはなりますが、生活習慣病等慢性疾患においては、食事や運動等の生活習慣の改善も含め、健康長寿に、より近づくことができるように、患者さんの将来を見据えた実のある診療を心がけています。その一環として、禁煙指導には力を入れていきますし、基本的な知識・新しい情報で、診療時間内に語りつくせない部分については、院内の健康教室等でお伝えできればと考えています。

当クリニックにとって、地域の中核病院であるまつもと医療センターとの連携は必要不可欠です。MRI・CTのオンライン予約システムも、使い勝手が良く、とても重宝しています。勤務医の先生の大変さも、身にしみてわかっていくつもりです。現状は、こちらから入院・検査等一方的に依存している状況ですが、双方向的に、こちらも何かお役に立てることがあれば、協力させていただきたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

春のコンサート



～世界的音楽家をお迎えしてのチャリティーコンサートが開かれました～

「ユーモレスク」、「トロイメライ」、「春の海」。誰もが一度は聴いたことのある名曲の数々が、世界で活躍されているヴァイオリニストとピアノリストの演奏で、病院の待合いロビーに響き渡りました。たくさんの患者さん、ご家族、病院スタッフが、時には真剣な表情で、時には涙を浮かべて、時には喜びに思わず声をあげながら、おんたりの演奏に聴き入りました。

3月10日、春めいたうららかなひとさしの中、両病院のロビーでコンサートが開かれました。集まった聴衆は松本病院⁹人、中信松本病院80人。演奏者はインディアナポリス交響楽団という世界有数のオーケストラのコンサートマスターを長年つとめられ、指揮者ソリストとしても有名な鈴木秀太郎さんと、鈴木さんの奥様でやはり世界的なピアノリストであるセイタ・ルガ・鈴木さん。優しい声で解説しながらヴァイオリンを弾いてくださる鈴木さん、柔らかなような白い手で暖かい音を紡いでくださるセイタ夫人、おんたりの音楽の魔法に、



病気の人もそうでない人も、看病されている人も、身体が不自由な人も、その不自由さを支える人も、

それぞれの抱える荷物の重さをふと置き忘れることができたのではないかと思えます。これほどの音楽家によるチャリティーコンサートはそうは望めませんが、「音楽の都・松本」の名を冠するまつもと医療センターとして、今後ともまた機会があればまた積極的に取り組んでいきたいと考えています。

(ソーシャルワーカー 植竹 日奈)



まつもと医療センター

第6号 平成21年4月1日発行
発行人 院長 米山 威久
松本病院
〒399-8701 長野県松本市芳川村井町1209
TEL.0263-58-4567 FAX.0263-86-3183
<http://www.matubyo.jp/>
中信松本病院
〒399-0021 長野県松本市寿豊丘811
TEL.0263-58-3121 FAX.0263-86-3190
<http://www13.ocn.ne.jp/~ncmh/>



● 編集後記 ●
松本にとっては、寒さと雪はなくてはならないものだと思いますが、今年の冬は、温暖化の影響を肌で感じる暖かさでした。まつもと医療センターも変革の初年度が過ぎ2年目となります。これからは地域にとって、ますますなくてはならない病院に成長し、それを皆様にお伝え出来るよう編集員2人はりきっております。今年度もよろしくお願いたします。(T)